



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025年7月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで63年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026年6月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CMを顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jpHP : <https://www.houkon.jp/>



2025年7月度ギャラクシー賞月間賞

NHKスペシャル「K2未踏のライン 平出和也と中島健郎の軌跡」

7月6日放送 日本放送協会

昨年7月、登山界最高のピオレドール賞を何度も受賞した二人が、K2の西壁に挑み遭難した。未踏の巨大な壁に挑んだ二人の記録映像からは、人間の力の限界を超えようとする技術と気迫が伝わり、結末を知っているからこそそのドキドキ感で画面に釘付けになった。家族を思いながらも生還できなかった二人。その挑戦と勇気を余すことなく伝えきった。

明鏡止水「侍・大谷翔平」

7月9日放送 日本放送協会

大谷翔平のバッティングフォームが「肚（はら）と手が一直線になる」日本の武術的な力の出し方になっているということを入りに野球の様々な技術と武術の身体の使い方の共通点を探っていく。極めてマニアックな内容ながら“武術翻訳家”を名乗る岡田准一の解説によって“肚”に落ちる感覚を味わえる芳醇な時間だった。

NHKスペシャル「命を診る 心を診る～小児集中治療室の日々～」

7月13日放送 日本放送協会

国立成育医療研究センターの小児集中治療室に密着。小さな命の最後の砦で、病気はもちろん人に向き合う医療従事者、心理ケアの専門家のチームワークが見事だ。辛い治療を乗り越えるための励まし、悲しい結末のその後をより良くするための模索。チームの一員のような映像の連続が、プロの姿と現状の課題を感動的に伝えた。

EIGHT-JAM「ブランキーとミッシェルがいた時代～90年代バンド史」

7月13日放送 テレビ朝日

ブランキー・ジェット・シティとミッシェル・ガン・エレファントを通し、90年代のロックバンド史を振り返る。個々のバンドで特集するという選択肢もあったと思うが、他のバンドも含めて俯瞰してみると時代の空気感も捉え、2組の独自の音楽性や魅力が深く理解できる構成が秀逸だった。

★詳細は月刊誌「GALAC」2025年10月号に掲載します